

## 第 36 回全日本高等学校チアリーディング選手権大会 大会 1 日目 男女混成部門予選結果

JOC ジュニアオリンピックカップ大会/第 36 回全日本高等学校チアリーディング選手権大会が 1 月 24 日、国立代々木競技場 第一体育館で開幕した。

自由演技競技ディビジョン 1 は今大会から女子部門と男女混成部門に分かれ、25 日の決勝で両部門のうち最高得点のチームが総合優勝となる。24 日は男女混成部門の予選に 6 校が出場。清林館高等学校（愛知県）、羽田国際高等学校（東京都）、興南高等学校（沖縄県）の 3 校が、シード校も加わる 25 日の決勝進出を決めた。

羽田国際高等学校は、2024 年に前身の蒲田女子高等学校が共学になったことで誕生し、現校名で初めて決勝に進んだ。チアリーディング部の顧問は、日本体育大学の出身。自身も大学時代、男子選手の 1 人として全日本学生選手権大会で準優勝した経験があるという。



男子生徒に声をかけて「バク転ができるようになるよ！」とチアリーディング部に誘い、現在、4人の男子選手がいる。

「全員が初心者です。中学までは野球やサッカーをしていた子たちで、私自身も高校まではサッカーをしていて大学からチアを始めました。基礎から教えて、どんどん吸収していくので、初心者だからこそ楽しみもあります」

共学になってわずか 2 年で掴み取った決勝の舞台。



羽田国際高等学校には、目指す理想像があるという。

「周りの人から応援されるチームを作ることです。学校の先生や、地域の方々、他のチームからも応援してもらえる存在になりたい。ジャパンカップでも決勝に立ちたいです」

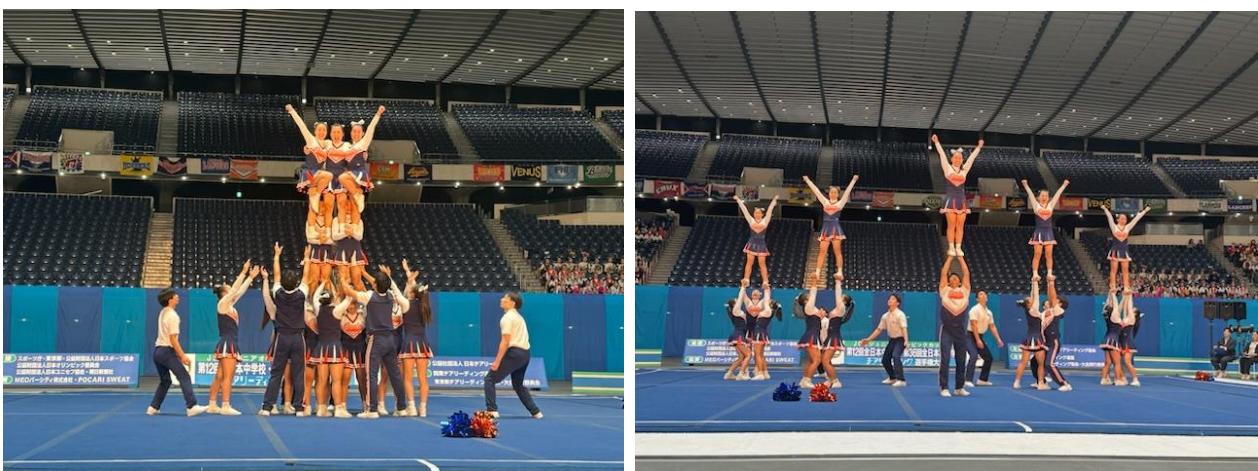
25日の決勝は前回大会2位で優勝候補の如水館高等学校（広島県）や福岡大学附属大濠高等学校（福岡県）らシード校と同じマットに立つ。

この日の予選では清林館高等学校が最も高い得点を出し、沖縄の興南高等学校も予選を通過した。公立勢として決勝を目指した川崎市立高津高等学校（神奈川県）、神奈川県立生田東高等学校・神奈川県立百合丘高等学校（神奈川県）はいずれも安全規則違反も影響し、惜しくも予選突破はならなかった。

予選を1位通過した清林館高等学校



沖縄県から出場し予選通過した興南高等学校



本サイトの記事、写真の転載はご遠慮ください。無許可の転載・複製は法律により罰せられます。

Unauthorized reproduction or duplication is punishable by law.